

令和7年度
群馬県文化賞

受賞者・受賞団体の功績概要

群 馬 県

◎文化功労賞

個人の部

くどう ひろこ

工藤 弘子（前橋市）

【芸術（俳句）】

長年にわたり、俳句作品を発表し優秀な成績を収めるとともに、平成15年から「山紫会」会長として、後進の指導、育成に努めてきた。

また、令和7年からは前橋市文化協会常任理事として、地域の文化の振興に貢献している。

とうみや あつよし

東宮 惇允（前橋市）

【文化財（有形の文化財）】

昭和54年から旧宮城村文化財調査委員、平成7年から文化財調査委員会代表として、文化財の保護、調査等に尽力してきた。

また、平成16年からは前橋市文化財保護指導員として、文化財の啓発及び普及活動に関わり、長年にわたり地域の教育文化の向上に貢献している。

やまだ かずあき

山田 和明（高崎市）

【芸術（写真）】

平成12年から高崎写真研究会フォトクラブ「光景写」会長として撮影活動や展示会を行うなど、長年にわたり後進の指導、育成に努めてきた。

また、高崎市勤労者美術展審査員や高崎市民美術展覧会運営委員長、同写真部門代表として、地域の写真文化の向上と育成に貢献している。

せき かつみ

関 勝已（伊勢崎市）

【伝統芸能（吟剣詩舞）】

平成19年から「吟道館流伊勢崎吟詠会」代表として、長年にわたり地域の吟剣詩舞の発展に取り組み、後進の指導、育成に努めてきた。

また、伊勢崎市文化協会副会長を6年間務めるなど、地域の文化の振興に貢献してきた。

くわばら ひさお

桑原 久男（沼田市）

【文化全般（茶道）】

平成7年度に沼田茶道会理事となり、現在は会長として、長年にわたり地域の茶道の発展に取り組み、後進の指導、育成に努めてきた。

また、令和6年からは沼田市文化協会副会長として、地域の文化の振興に貢献している。

かねこ たかお

金子 孝男（千代田町）

【文化全般（文化協会等の活動）】

絵画団体「みどりのアトリエ」会長として、後進の指導、育成に努めてきた。

また、平成8年に千代田町文化協会常任理事となり、令和2年から4年間は会長として、千代田町文化協会50周年事業の挙行に尽力。現在は顧問として、地域の文化の振興に貢献している。

なかもと たいすい

中本 大翠（大泉町）

【芸術（書道）】

平成6年から「群馬創玄書道会」の役員を務めるなど、長年にわたり後進の指導、育成に努めてきた。

また、平成27年から（一社）群馬県書道協会役員となり、現在は相談役として、本県の書道文化の振興に貢献している。

いなば しんご

稲葉 進悟（邑楽町）

【文化全般（和太鼓）】

高校生の時に邑楽太鼓盛和会の立ち上げに参加し、長年にわたり和太鼓の演奏を披露するとともに、技術向上及び後進の育成に努めている。

また、平成22年に文化協会役員となり、現在は副会長として、地域の文化の振興に貢献している。

団体の部

げきだんざ・まるく・しあたー

劇団ザ・マルク・シアター（前橋市）

【芸術（演劇）】

昭和58年結成。オリジナル脚本による自主公演を開催するほか、地域のイベントや文化事業への参加、高校演劇部や放送部の指導など、長年にわたり地域の文化の向上に貢献している。

令和6年には演劇創作ユニット「百花繚乱」を結成。シニア層の活躍の場を創出するとともに、演劇活動への参加意欲を喚起する新たな取り組みにチャレンジしている。

やまもとれいこばれえだんふぞくけんきゅうじょ

山本 禮子バレエ団附属研究所（太田市）

【芸術（舞踊）】

昭和50年設立。国内外のコンクールで多くの入賞者を輩出。特に世界最高峰の若手登竜門であるローザンヌ国際バレエコンクールにおいて、1つの研究所から8名の入賞者を輩出しているのは日本唯一。

太田市の文化芸術事業との連携や群馬交響楽団との共演など、地域の文化芸術の普及・振興にも貢献している。

つくだにんぎょうそうさでんしょういいんかい

津久田人形操作伝承委員会（渋川市）

【民俗芸能（人形芝居）】

津久田人形芝居櫻座は300年以上継承されている歴史を持つ。公演が行われる歌舞伎兼用農村舞台は、県内最古であるとともに唯一の人形芝居常設舞台。

平成8年に伝承委員会を設立。高齢化などのため6年間の休座後、広く県内から座員を募集し平成25年に活動再開。地元での公演だけでなく、県内の大学での公演や小中学校での体験教室などにも参加し、幅広く伝統芸能の伝承と後継者の育成に取り組んでいる。

◎文化奨励賞

—— 個人の部 ——

あだち ののか

安達 野乃花（伊勢崎市）

【芸術（書道）】

6歳から書道塾へ通い始め、現在は学校の書道部で活動している。

令和7年の「第30回全日本高校・大学生書道展」において、最高賞の書道展大賞を受賞し、その功績は卓越している。

ごとう ちほ

後藤 千穂（渋川市）

【芸術（美術）】

9歳から絵画教室へ通い始め、現在は学校の美術部で活動している。

令和7年の「第55回世界児童画展」において、最高賞の内閣総理大臣賞を受賞し、その功績は卓越している。